

## 令和元年度 滋賀県「健康いきいき 21」地域・職域連携推進会議議事概要

日 時 : 令和2年2月14日(金) 9:30~11:00

場 所 : 滋賀県庁北新館3階中会議室

出席委員: 三浦委員(会長)、富田委員、宮田委員、野村委員、田端委員、日爪委員、  
寺村委員、阿川委員、真田委員、福井委員、澤委員、松井委員、西垣委員、  
井下委員

代理出席: 林委員(井口委員代理)、小林委員(永井委員代理)

欠席委員: 越智委員、佐藤委員、柳本委員、中西委員、谷口委員

事務局 : 健康医療福祉部健康寿命推進課富田課長、健康しが企画室笹山室長  
健康医療福祉部担当職員

### 会議内容

#### 議題

- 1 「健康いきいき21ー健康しが推進プランナー」の進捗状況について
- 2 健康に関心の向きづらい人が健康づくりに取り組める環境づくり・働きかけについて
- 3 その他

#### ◆あいさつ健康医療福祉部角野理事

日頃から県政へのご理解とご協力、地域や職域における健康づくりにご尽力いただいていることにお礼する。

新型コロナウイルス感染症が喫緊の課題。県内での発生を未然防止するため、県は全力で取り組む。委員の所属においても予防策をお願いする。

「健康いきいき 21ー健康しが推進プランナー」改定後の2年目。引き続き各関係機関、関係団体が連携しながら様々な施策に取り組んでいくことに対して、改めてお願いをする。

今年度は、国において「健康寿命延伸プラン」がとりまとめられた。県の計画の進捗状況を確認して、今後の課題を共有することで、さらに連携して取組を進めていきたい。

「健康しが」を一步前に進める取組について、限られた時間ではあるが、活発な意見交換をお願いする。

#### ◆議事(議事進行:会長)

- 1 「健康いきいき21ー健康しが推進プランナー」の進捗状況について

事務局 資料1により「健康いきいき21ー健康しが推進プランナー」の進捗状況を説明。

会長 循環器病対策基本法に沿って脳卒中、心臓病の対策を強化する必要。ここでも健康づくり、疾病予防が非常に重要視されている。

各団体からアピール点、ポイントを絞って取組状況を報告いただく。

- 委員 滋賀県栄養士会は、地域栄養ケア窓口を開設。出前講座で食生活栄養教室を実施。今年度計 320 名ほどの参加があった。引き続き取り組む。
- 委員 滋賀県市町保健師協議会は、保健師が健康づくりの中心となって推進できるような人材を育成。研修会の実施、派遣を行っている。
- 委員 滋賀県商工会連合会では、健康経営の意識向上を図っている。保険者と連携して実利的な利点の面からも啓発していきたい。  
資料に健康経営の取組事業所の把握が課題とあるが、どのようにするか。
- 事務局 各関係先が把握されている事業所情報を参照して、網羅的な把握方法を検討したい。協力願う。
- 会長 各団体からの情報提供をお願いします。
- 委員 滋賀県中小企業団体中央会は、勉強会、視察研修を実施。3年前までは健康増進のテーマがあったが、ここしばらくは実施なし。先ほど、循環器病対策基本法の話があったので、この機会に改めて健康づくりについてやっていきたい。
- 委員 健康保険組合連合会滋賀連合会では、感染症、糖尿病重症化予防、ロコモなどのテーマで勉強会等を実施。
- 会長 各保険者が各々実施しているが、県全体として何か共通テーマを考えてもいいかもしれない。
- 委員 滋賀県国民健康保険団体連合会では、ナッジ理論を活用した受診率向上のための支援。糖尿病の未受診者等の指導支援。市町格差解消のため、好事例集を作って横展開を進める。
- 会長 ナッジ理論について解説。
- 委員 全国健康保険協会滋賀支部では、生活習慣病予防健診等を実施、費用補助。市町との共同実施により受診率向上。被扶養者受診率は全国トップクラス。ますます強化する。
- 委員 立命館大学スポーツ健康科学部では、ヘルシーキャンパス事業：衣笠・BKC ウォーキングイベント、大阪府との共同プロジェクト（セミナー開催、対象：市民、教職員、学生）  
サルコペニア・フレイルチェック（草津市、甲賀市）、共同研究でサルコペニア・フレイル評価事業、超創人材大学院プログラムを実施。  
委員の皆さんからいろいろな協力をいただきたい。
- 委員 株式会社平和堂では、「健康いきいき 21ー健康しが推進プランー」に基づいて、社内・社外の取組を実施。  
地域活動として県内各地で地元自治体の協力を得てイベントを実施したり、健康推進員の参加による食育活動を行っている。坂本店では、百歳体操等を毎週実施する拠点を整備したところ、お客様の行動変容が見えてきた。地道に続けたい。

会長 住民にとって、生活の身近なところで実施されるのはとてもよい。コラボの大事な拠点。皆さんも協力を。

委員 滋賀労働局は、50人以上の事業場に対し、ストレスチェックの実施とその結果の分析が義務付けられ、気付きの促しとメンタルヘルス対策の早期対応を促進しているところだが、事後措置、高ストレス労働者の面談等労働者本人の自主性とされていることから、実績が上がらない状況である。  
今後、受動喫煙、治療と仕事の両立支援を一層強化して取り組む。現状、助成金申請、問い合わせが多く寄せられている、関心が高い。

委員 滋賀県後期高齢者医療広域連合では、歯科健康診査について、平成30年度から、未受診者に対し受診勧奨通知を送付したところ、受診率が前年度から大幅に上昇した。また、令和元年度については、受診勧奨通知を利用して意識調査を実施。回答結果を分析して、受診率向上や効果的な事業の実施に繋げる予定。

委員 教育委員会保健体育課は、朝食欠食率の減少に取り組んでいる。  
市町別朝食摂取率の公表により、市町において課題として把握し、家庭支援の取組を進めていただきたい。「朝食は健康のために大切だ」と考える子どもが増えるようにと考える。

会長 未成年のたばこ対策も重要。

委員 滋賀県健康推進員団体連絡協議会は、3500人が健康づくりのすべての面で活動。様々な団体と協力して実施している。食事は特に大事。減塩、野菜摂取、朝食摂取について、学校・地域にて活動している。  
近年、頑張った結果が全国順位に現れており、大変うれしいこと。皆の活動の賜物。法改正で注目される受動喫煙対策も古くから活動、この機に改めて頑張りたい。

委員 保健所では、データ活用と結果の分析。圏域ごと関係機関と連携し、「住んでいるだけで健康になるまちづくり」を進める。衛生科学センターは、データ分析を支援するので相談してほしい。

会長 分析結果は是非発信してほしい。

## 2 健康に関心の向きづらい人が健康づくりに取り組める環境づくり・働きかけについて

事務局 【資料2】により健康に関心の向きづらい人が健康づくりに取り組める環境づくり・働きかけが必要となる旨を説明。

会長 意見はどうか。

委員 保健師が参加した研修でナッジ理論についての講義があり、例えば、公園の近くに住む人は運動量が多い、運動の盛んな地域では認知症リスクが低いなどの統計が紹介されていた。証拠に基づいており説得力がある。環境を整えることの重要性を確認。県内市町では様々な取り組みを行っており、例えば、スーパーに野

菜たっぷりのレシピを備え付けたりして啓発。レシピはすぐなくなると聞く。住民の生活に近い場で地道な活動を続ける。

会長 生活習慣、行動を変えるちょっとしたきっかけが、街中にいろいろあることが大事。県民の立場ではどう感じるか、実感はいかがか。

委員 県民の立場から。息子やその友人に「健康」への関心を問うと、会社の体操はやっている人はやるけれどやらない人はやらない、スポーツイベントも参加する人は決まっている様子らしい。

企業が努力はされているが、若くて関心のない人はそんな感じ。そのような人でも関心を持てるといい。

仕事では、スポーツに携わる。幼児のころから体を動かす体験は大事。そこに取り組んでいる。

会長 県や社会全体の取組を感じる、見聞きするようなことがあるか。参考にしたい。

委員 自分は関心があるので、SNS などを見て、こんなイベントがあるか、と知る。こういうのがあったのか、いつからあったかと思うことがある。

私のように関心のある者でもそうなので、興味のない人には響いていないだろう。そこで、地元の小さな地域の範囲で教室や呼びかけがあるといいと思う。

会長 どのように県民に知っていただくか、世代によっても違うだろうし、ターゲットによって考えたい。普及啓発の方法をいろいろ考える必要。

ほかにアイデア、意見はないか。

委員 全国健康保険協会滋賀支部では、健康に関心がない若い人に向けて新たに取り組む。次年度、初めて健診対象になる人に、受診勧奨をする。検査方法の周知などきっかけづくりを早めにやる。これが受診につながるか検証したい。

会長 若いうちからの取組が大事。

委員 学生は、健康にあまり興味がないが、徐々に高まっているように感じる。

けがの経験がある学生、家族特に祖父母が病気をし、それを気にかけている学生は健康に興味を持っている。目の当たりにした子どもは、関心を寄せて学ぼうとする。高齢者と若年者が互いに交流する機会があれば、両方とも健康に関心を高めるのではないか。

また、ふるさと納税など、減税はできないか。健康づくりアプリで一定歩数を歩いた人は減税とか。

会長 既に他国では減税の施策がある。社会全体で動かすためには大事なこと。国の取組に期待する面もある。

### 3 その他

事務局 【資料3】により滋賀県「健康いきいき21」地域・職域連携推進会議の次年度以降のイメージを説明。重なり合う部分は共同するイメージである。

「健康しが」共創会議の趣旨、開催状況を報告。共創会議をベースに平和堂坂本店の取り組み例を参考に、健康交流スペースの取組を進めるなど、生まれた連携事例、アイデアを安定的な取組につなげる。健康無関心層などターゲットに合ったアプローチを行う。

両方の会議の役割は今後の様子を見ながら、具体的に整理していきたい。

会長 保険者協議会と「健康しが」共創会議もでき、特徴を発揮して、役割の整理、連携、情報共有をしてやっていけるといい。「健康しが」共創会議は、企業等の実務の人が集まる場として盛り上がっているようなので、今日のこの会議のようにトップの人が集まる会議とは性格・機能が違うのだろう。

説明について、質問、意見はないか。

委員 (意見なし)

会長 事務局は、引き続き整理してほしい。

委員は、各団体に持ち帰り、伝えてほしい。

事務局 事務局より、参考資料について説明。

健康に関するデータ分析は、各機関、団体が貴重なデータをもっているが、ばらばらにあることで活用しきれしていない。例えば、「グラフで分かる！みんなの健康 産業別・生活習慣改善ポイント」では、産業別で分析すると特徴がみられた。企業への働きかけに活用することで効果的な活動を願う。

参考資料のとおり企業が健康経営を支援する動きがある、周知活用してほしい。

終了